

## 診療看護師って知っていますか？

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会  
副会長 城處 洋輔



昨年11月8日における出来事ですが、職場の同僚から「今日は何の日か分かりますか？」と聞かれ、私は「良い歯の日ですか？」と答えました。何とも言えない空気が流れた後に、「レントゲン博士がX線を発見した日ですよ」と言われ、今までにどこかで聞いたかもしませんがすっかり忘れてしまっていてなかなか恥ずかしい思いをしました。1895年11月8日はわれわれの職業としての起源であり、日本においては1951年に診療X線技師法、1968年には診療放射線技師法が制定され、現在の診療放射線技師の資格に至ります。近年では、2021年に医師の負担軽減を目的とした、タスク・シフト/シェアを推進するため、診療放射線技師法を見直して、業務として行える行為を増やすことが盛り込まれました。

タスク・シフト/シェアについてはさまざまな職種において行われています。当院の看護部に特定看護師はいましたが、最近では診療看護師（Nurse Practitioner：NP）が活躍し始めました。皆さまのご施設にも従事されている方がいてすでにご存じかもしれませんが、私はこの資格を初めて知りました。われわれの資格と同じ「診療」という名前が付いていますが、どのような資格か調べてみますと、まず診療看護師になるためには、看護師として5年以上の実務経験を有し、かつ大学院修士課程を修了して資格試験に合格する必要があります。では特定看護師と何が違うのかというと、医療機関や大学院などで特定行為の研修を修了すると、特定看

護師になれます。特定行為を実施するときは、あらかじめ対応可能な範囲が明確に示された手順書による医師の指示に基づき、指示範囲内であれば手順書通りに対応し、指示範囲を超えていれば改めて医師の指示を仰ぎます。これに対し診療看護師は、全ての特定行為に加え、医師の直接指示による相対的医行為も行うことができます。従来より広い範囲の医行為を行えるため、現場で医師の判断を待たずに患者への対応ができ、医師の負担軽減に大きな力を発揮することが考えられます。

診療放射線技師も負けてられません。業務拡大の一つに造影剤を使用した検査やRI検査での静脈路を確保する行為ができるようになりました。最近では造影剤の副作用が少ないMRI検査やRI検査から取り組み始めている施設も増えてきているようですが、まだまだ少ない印象があります。当院では看護部の協力もあり、早い時期から研修体制を構築し、実施することができましたが、施設の規模など環境も異なると実施が難しい施設もあるかと思えます。ただし、スキルアップ、業務の効率化、最終的には診療放射線技師の地位向上にも繋がる可能性もあるため、積極的に取り組むことでのメリットもあります。

まずは告示研修の受講が必須です。告示研修の必要性は理解しているものの、業務上不必要、費用などの理由で受講を控えている方もいると思いますが、免許の更新としてぜひ受講をお願い致します。